



# 大砂土小だより

学校教育目標「自ら学び、考えて行動する児童の育成」

～ 認め合い・学び合い・共に育つ ～

<目指す児童像>

豊かなコミュニケーションの下で、

かしこい子（知） 明るい子（徳） たしむしい子（体）

TEL 663-7005

FAX 663-9886

令和7年11月28日 第8号

大砂土小学校 ホームページ <http://osato-esaitama-city.ed.jp/>

Eメール [osato-e@saitama-city.ed.jp](mailto:osato-e@saitama-city.ed.jp)

## 「あなたがいてくれるだけで嬉しい」ということ

校長 新堀 栄

今年もあいさつ門の近くに植えられている「ゆずの木」にたくさんの黄色い実がなりました。あまり知られていないことですが、大砂土小学校には、多くの実のなる木があるのです（ミカン、夏ミカン、柿、キンカン、キウイ、ザクロ、カリン、ビワ等）。

晩秋から初冬を迎え、日が暮れるのが早く、そして、吹く風が冷たくなり、ふと退勤時に西の空を見上げると、真夏の夜空に輝いていた「夏の三角形（ベガ・アルタイル・デネブ）」が、マンションの陰に沈んでいくところです。街には至る所でイルミネーションが輝き、落ち葉やしっとりとした湿った土の上をうっすらと霜が覆い、冬の訪れを感じさせる季節となりました。秋に行われる様々な行事も終わり、学校はいよいよ2学期のまとめの月に入ります。

今年は、インフルエンザの流行が例年よりもひと月以上早く、「さいたま市インフルエンザ週報（速報）」でも、警報レベルに入ったことが伝えられました。本校でも学級閉鎖のクラスが既に17学級を数えました。感染予防及び拡大防止のため、手洗い、うがい、咳エチケットの励行をお願いするとともに、無理な登校は見合わせていただければと存じます。寒暖差が激しい今週ですが、そのような中でも、大砂土小学校の子どもたちは、毎日元気に登校し、休み時間には外遊びを楽しんでいます。

さて、今年度スタートの4月8日の始業式に、私は、子どもたちに「いつも当たり前ではなく、ありがとうという感謝の気持ちをもって過ごせるといいですね。」という話をしました。学校生活の中で、そのことを実際に実践している子どもたちの姿を見かけることも増えてきました。私自身も、大砂土小学校の子どもたちが、素直で、明るく、元気に過ごしていることを、当たり前のこととは思わず、子どもたちはもちろんのこと、保護者の皆様、地域の皆様のおかげであると、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、私は幾度となく、自己肯定感（または自尊感情）を高めるには…という話をしましたが、その基本は、子どもの存在そのものをほめることです。これは子どもの良い行いをタイミングよくほめることはもちろん大切ですが、特に何かをしなくてもほめられる、文字通り存在するだけでほめられるというものです。どちらもとても大切ですが、ご家庭で特に大切にしていきたいのは後者です。なぜなら、「あなたがいてくれるだけで嬉しい」ということを伝えられるのは、家族の他にあまりいないからです。けれども「存在そのものを認める」ことは、頭の中では思っているにしても、日常ではあまり子どもに伝えていないのではないのでしょうか。

子どもは誰かに「存在そのものを認められている」と思えるだけで、長所も短所も併せもった自分を「価値ある人間だ」という自己肯定感を育てることができます。自己肯定感をもった子は、他者の違いを理解し、認め、他者を思いやることもできます。成功や優劣に関係なく、「ただそこにいるだけで十分だ」という温かいメッセージを、私も大砂土小学校の子どもたちの親になったつもりで、これからも大切に伝えていきたいと思っています。

終業式には子どもたちが通知票を持ち帰ります。子どもたちの頑張っている様子をご覧ください。そして、お子さんのほめるところをたくさん見つけて、いつもより多く話してみたいでしょうか。

間もなく2学期も終わり、子どもたちが楽しみにしている冬休みに入ります。わずか2週間の休みですが、年末年始の行事も多く、心を通わせ、成長の糧になる機会もたくさんあると思います。子どもたちがこの1年を気持ちよく締めくくり、希望にあふれた新年を迎えられることを切望します。